

令和 4 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和 4 年 7 月 7 日（木）14：00～

16：30 場 所：Web（Zoom）会議のため、各

施設にて出席者：10 名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、島袋百代（パンキャンジャパン沖縄アフィリエイト）、上地久美子（地域統括支援センター）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：4 名 樋口美智子（沖縄国際大学）、玉城佐笑美（県立中部病院）、
小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）

陪席者：2 名 有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和 4 年度第 1 回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和 4 年 5 月 19 日）

資料 1 に基づき、仲宗根委員より、令和 4 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（4～6 月）

資料 2-1 に基づき、令和 4 年 4 月～6 月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院はゆんたく会開催なし。那覇市立病院は、2 年ぶりに対面式で再開。参加人数 5 人、事前申し込み制とし、1 時間に短縮。参加者 3 名、うち 1 人は新規。ほしい情報が探せない、がん情報サービスで一般的な情報は得られるが、より個別性の高い情報が得られるので再開されてうれしい等の声があった。足が悪い方からはオンラインも開催希望あった。がんサポートハンドブックのミニ講義では、新旧の変更点を紹介。今後オンラインになる可能性を踏まえて、サロン終了後Zoomの勉強会も行った。次回は 7 月に予定。琉球大学病院は感染対策を講じながら対面で開催。パンキャンジャパン沖縄支部は、島袋委員より報告があった。5/21 にオンラインで開催、患者家族 1 名の参加だった。参加が少ない中で丁寧に対応できてよかった。その他、電話相談 2 件。診断後の家族からの電話相談が 2 件あり、精神的な不安・動揺について傾聴した。市民公開講座もハイブリッドで予定。がん患者サバイバーの痛み 集学的治療、痛みに関する情報提供を行う。現時点で 20 名ほどの申し込みがあり、感染対策を講じて実施したい。友愛医療センターは、上原委員より報告があった。月一回オンラインで実施。4～5 名の参加。抗がん剤治療終え在宅療養に切り替わった患者家族の参加があり、なかなか知ることができない在宅での

[ここに入力]

様子をうかがうことができた。対面開催は病院の方針でめどはたっていないため、オンラインで継続予定。

3.がん相談件数（4～6月）

資料 3-1～3-6に基づき、令和4年4月～6月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院

4月は在宅療養の希望が多く、訪問看護、介護保険の説明。5月6月は、継続対応の患者さんが多く、緩和ケア含めた在宅療養の相談が多かった。

○県立中部病院

委員欠席のため、紙面報告。

○那覇市立病院

不安や精神的苦痛の対応が多く、続いて介護・在宅ホスピスが多かった。以前は医療者とのコミュニケーションの相談が多かったが、最近は家族間でのコミュニケーションの相談が多かった印象。家族と疎遠、告知を本人にするかしないか家族内で意見が割れている、など。

○県立宮古病院

在宅療養中の独居の患者について、地域関係者（訪問看護など）からの相談があり、WOC外来に繋ぐなど対応が続いた。6月は外来での告知同席が10件あり、例年より多かった。開業医で診断がついているが、がんとの認識がなかったケース、家族同席がなかった方へのフォローを行った。

○県立八重山病院

新型コロナの影響で相談員が半月ほど休職したため、6月だけ相談件数が30%ほど落ち込んだ。内容としては、告知同席、在宅医療の調整が主だった。またゲノム外来受診の説明依頼があり、一人琉大へ紹介となったが、本人の容体が悪化しているためがんセンターの担当者と受診の調整をしている。

○琉球大学病院

在宅調整、緩和ケア相談が多いと相談件数も比例して多くなる傾向。最近では、不安・精神的苦痛の相談も増えてきている。他院の患者で、主治医とのコミュニケーションについて複数回相談される方など、院外のリピーターも一定数いることが分かった。センターに関する情報入手経路としては、インターネットからの問い合わせ、院内掲示・各外来に設置しているパンフレットからの誘導が一定数ある。院内スタッフからの紹介と併せて、相談につながるよう引き続き強化していきたい。

○友愛医療センター

4月から相談スタート。おおよそで行くと、4月26件ほど、5、6月15～16件ずつ。内容は、告知後のフォロー、在宅や緩和への調整。MSWや緩和の看護師と連携している。

[ここに入力]

○南部医療センター

成人の相談は、終末期の療養先、治療の継続をどうするかといった意思決定支援、疼痛コントロール、精神的苦痛、アピアランスについて相談があった。また、呼吸困難時の鎮静と呼吸苦に対する不安、呼吸苦出現時の対応について本人・家族間協議のサポートを行った。小児は、入院中に医療的ケアが増えた在宅ベースの退院調整、琉大での移植相談・受診調整など対応した。

4. がん相談件数集計（令和3年度）

資料4の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき報告があった。対面・電話相談の割合、自院・他院患者への対応割合、入院・外来の割合は、病院によって違いがあり、人員配置や体制の違いが反映されていると思われる。利用時間は、30分程度が一番多く、90分以上の相談対応も各病院一定数ある。治療前からの介入は、宮古病院、那覇市立病院、八重山病院などが早い段階から対応していることがわかる。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報に関する報告があった。計4回の依頼中、3回掲載された。引き続き広報依頼を行う。

6. 地域統括相談支援センター活動報告

資料6に基づき上地委員より報告があった。ピアサポーター相談では、リピーターが多く、不安の傾聴、家族としてどう関わったらよいかといった相談が主だった。月に1回開催しているオンラインゆんたく会は参加者が1～2名と少人数であるが、各人と密にコミュニケーションができた。告知の時期や方法を工夫して、参加歴のある方々を中心にお電話などで開催通知をし、参加を促した。

7. 第18回都道府県がん診療連携病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

資料7に基づき、友利委員より第18回都道府県がん診療連携病院連絡協議会情報提供・相談支援部会の報告があった。

・「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書」では、より良い相談支援センターを持続的かつ発展的に運営するためには、相談員の増員やセンターの環境調整が必須であること、さらに質の高い相談支援の提供を目指して病院を挙げての取り組み、都道府県協議会全体・行政も含めた連携と協力が必要であることを明記することが盛り込まれている。加えて、WEBでの会議や研修が実施できる環境の必要性も挙がっている。相談支援センターにお任せではなく、がん医療にかかわる皆でサポート体制を充実させていく形になってほしいとの声もあり、治療が始まる前ががん支援センターに立ち寄ることができるシステムを病院挙げて確立することと、相談員の増員についても強く申し入れている。

[ここに入力]

・情報資材として、「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」が完成した。がん情報センターのホームページでも公開され、初回告知を行った際医師から手渡すことが推奨されている。実際に利用した医師からは、生活や仕事面の話題も触れることができ、コミュニケーションがとりやすくなったとの声があった。

・四国がんセンター（愛媛）の相談支援部門からは、県と相談支援部会、患者会と連携し、広報や研修運営が活性化しているとの報告があった。

8.第 8 回がんピアサポートフォローアップ研修会

資料 8 に基づき、上地委員よりがんピアサポーターフォローアップ研修会開催の報告があった。7 月 23 日（土）10 時より、沖縄県医師会館 3 階ホールで対面開催予定。新型コロナの状況によってオンラインになる可能性あり。

9. 次期指定要件の改定について

増田委員欠席のため資料 9 に基づき紙面報告、大久保委員より補足があった。

一通り要件案がまとまり、8 月ころに正式に決定する見通し。常々検討してきたように、要件の簡素化、都道府県協議会の役割の明確化、オンライン相談対応ができるよう情報通信機器・技術の活用、視聴覚障害のある相談者への配慮、相談センター初回利用の数を把握し認知度の継続的な改善に努めることなどが盛り込まれている。人員配置への増員については、協議されたものの明記には至らず。

10. その他

友愛医療センターの上原委員より。沖縄県若年がん患者会「Be style」は、年三回交流会を行っているが、今年度は 7 月 24 日 14 時～、対面または WEB との混合形式で開催予定と報告があった。

【協議事項】

1. 令和 4 年度部会計画

① がん相談員実務者研修会の開催について資料 10-1 に基づき、仲宗根委員より提案があった。第一回実務者研修会を、8 月

20 日（土）10 時開始、那覇市立病院で対面開催することについて承認された。

② その他

資料 10-2 に基づき、部会計画について提案された。がんサポートハンドブックの更新への協力、がん相談支援センター活用促進の体制づくりに関するアイデア、オンラインでの相談対応の工夫について今後意見交換していきたい。相談員研修について、琉大病院は 10 月ころに QA 研修を検討している。がん経験者とのネットワーク構築について、毎年患者サロンの代表者と意見交換していたが、コロナで中断していたため再開を検討。就労支援に関する勉強会・意見交換会の希望があるため、産業保健支援センターやハローワークとともに開催を検討。

[ここに入力]

2. 患者サロンへのピアサポーター派遣について

資料 1 1 に基づき紙面報告と、大久保委員、上地委員より補足。患者サロンへのピアサポーター派遣については、現時点で患者サロン開催している那覇市立病院へ参加予定。他にも声掛けがあれば、ピアサポーターの参加を積極的に行う。

3. インターネット環境を用いたがん相談について資料

12 に基づき紙面報告。

- (1) ネットを利用したがん相談支援センターとしての相談体制を、今年上半期に確立してはどうか

仲宗根委員より、国がんや、その他の病院がどのように対応しているのか参考例があるとより具体的にイメージしやすいとの意見に対し、友利委員より、国の相談支援部会でもオンラインでの相談対応の進み具合は地方とあまり変わらないと回答があった。陪席の有賀先生より、相談にアクセスする側（相談利用者）のオンライン環境活用能力にかなり個人差があるため、手順説明のコストをどうクリアするかが課題だとコメントがあった。上原委員より、オンラインは相談室を利用するハードルの高さがより高くなるという懸念、電話相談とオンラインの差別化をどう図るのかを考えたとき、より電話相談のハードルが低いのではないかと意見があった。また有賀先生より、取りこぼしがないように対面、電話、オンラインなど、様々な選択肢を整えることが必要ではないかと意見も挙げた。

- (2) iPad を利用したがん相談支援センターとしての相談体制を検討してはどうか地域統括支援センターの喜瀬さんより、琉大病院では現在各病棟にポケット

Wi-Fi と iPad の導入を進めていると補足説明があった。

4. インターネット環境を用いた患者サロンについて

資料 13 に基づき紙面報告。島袋委員より、すい臓がんの患者さんもピアサポーターの研修が受けられるよう要件の緩和を以前から申し入れている点について、進捗の確認があった。大久保委員より、増田先生がピアサポート養成カリキュラムを作成する団体に確認することになっていると代理で回答があった。

2. その他

(友愛医療センター 上原委員)

がん相談支援センターの新聞広告の反響はどうだったか、拠点病院以外の病院で治療している患者さんらの動きも気になる。

(琉球大学病院 大久保委員)

インターネットが普及してはいるが、まだまだ新聞から情報を得る層も多いため新聞広告は継続するとの流れになっており、文面の改定案などあれば提案していただきたい。

(南部医療センター 富里委員)

小児がんの長期フォローアップについてどのようにされているか？

(琉球大学病院 大久保委員)

[ここに入力]

成人の血液がん患者さんは、寛解後に年 1 回程度通院される方がみられる。治療医としては病状が落ち着いているため、かかりつけ医へ繋がることを勧めたいが、どうしたらいいかという相談が寄せられている。婦人科系のがん治療後は地域の先生にお願いすることも多い。小児の長期フォローアップについては拠点病院の会議の中でも課題になっており、小児拠点と成人拠点とで連携して診られる体制を作っていこうということで合意されている。南部医療センターの小児科で治療後、成人された方はどうされているか？

(南部医療センター 富里委員)

自己判断で受診が途絶える方もある。小児血液の先生方が移行期支援に関して必要性を感じ

始めており、治療後のフォロー先や就労先の相談をどうしていったらいいのか、

MSW や小児専門看護師に相談が来ることがある。

(琉球大学病院 友利委員)

琉大では、小児科で骨髄移植を行った方に対してのみフォローアップ外来が設けられており、県外への転居予定があるなど、必要時に小児科の外来で治療サマリー等対応している。がん相談支援センターには長期フォローアップの相談はほとんどない。他院で小児がん治療を受け成人した方のフォローアップ受け入れについては、小児科ではなく一般の方と同じように各診療科へ予約申し込みしていただくよう案内している。

(琉球大学病院 大久保委員)

お子さんの就労支援について。ハローワークで若年者支援を行っていると聞いており、実際繋いだケースはないが、大学生世代は少しずつニーズがありそう。病状や体調について治療施設に状況確認しながら支援が進められるので、基本は治療した施設で相談を行うことが望ましい。拠点病院に相談ご希望の場合は、連絡を取り合いながら進められるとスムーズかと思う。

・次回開催は、2022 年 10 月 19 日（水）14 時から開催。